



# のびのび通信



NO. 3

甲賀市 発達支援課  
Tel : 0748-69-2178

暑い日が続き、いよいよ夏本番です。引き続き、新型コロナ対策を続けながら、夏を元気に過ごしたいですね。さて、今回ののびのび通信では、『子どもの行動を理解しよう』『幼児期に大切な運動遊び』という二つのテーマを、心理士と作業療法士の視点からお伝えします。

## 子どもの行動を理解しよう

『お子さんの良いところ、気になるところは?』という質問をすると、気になるところがすぐに思いつくという方も多いのではないのでしょうか。生活の中で子どもの気になる姿が目に入ると、何とかやめさせようと注意することもあると思います。

しかし、注意してもなかなか解決しないこともあるのではないのでしょうか。子どもが気になる行動をする背景には必ず理由があります。子どもがなぜその行動をするのかを見極めて対応することが大切です。

例えば、“大きな声をあげる”という気になる行動があるとします。その背景には・・・。



冷蔵庫の前で大きな声をあげると、大人がジュースを取ってくれるのかもしれない。



片付けたくない時に大きな声をあげると、しなくてよいのかもしれない。



大人に見てもらえない時に大きな声をあげると、大人が自分の方を向いて反応してくれるのかもしれない。



何もすることがないときに、大きな声をあげることで、刺激を得ているのかもしれない。

このように、同じ“大きな声をあげる”という行動でも、子どもの目的は違います。

子どもが気になる行動を起こすとき、その目的は大きく分けて次の4つが考えられます。

①『要求』  
(〇〇がほしい)

②『拒否・逃避』  
(〇〇をやりたくない・〇〇から逃げたい)

③『親や周囲の人から注目されたい』

④『感覚刺激がほしい』

①や②の場合、子どもの望みどおり欲しいものが手に入ったり、やりたくないことから解放されると、その場では気になる行動はおさまります。ただ、このような対応を続けると、ほしいものやしたくないことがあるたびに気になる行動を繰り返すようになります。

③の場合、親が注意をすることで、子どもは注目されていると思い、気になる行動を繰り返すことがあります。

④の場合、遊ぶことがないときには自分の好きな刺激の得られる遊びとして、気になる行動を続けることがあるかもしれません。子どもの目的を見極めて、効果的な対応を工夫していくことが大切となります。次回、具体的な対応についてお伝えします。

(引用文献)『発達障害の子どもを伸ばす魔法の言葉かけ』Shizu (著) 平岩幹男 (監修) 講談社

## 今月のあそび 毎月、家庭でできる遊びを紹介します。



今回のあそびアイテム  
**しゃぼんだま**



小さいお子さんであれば、大人に吹いてもらうのを期待して注目したり、「もう一回」と身振りで伝えたりしながら、大人と同じ遊びを共有するきっかけになるとと思います。

大きいシャボン玉も面白いですね。プリンカップなどを使って次の割合で材料を合わせます。うちわを水につけておいて、紙を外したものの(うちわの骨)を使うとシャボン玉がたくさんできますよ。

水：5  
台所用洗剤(界面活性剤40%位)：1  
洗濯のり(PVA)：4 (砂糖大さじ1程度を加えるのもおすすめ)



子どもの遊びポータルサイト  
『ミックスじゅーちゅ』  
～大きいシャボン玉の作り方～

## 幼児期に大切な運動あそび

「食事の時の姿勢が悪い」「すぐに寝転んでテレビを見る」「転びやすい」などのお子さんの姿が気になることはありませんか。姿勢を保つ筋力が不十分、全身をうまく使うことが難しい、などの理由があるかもしれません。

しっかりした体を作っていくために、体や脳がぐんと成長する幼児期のうちから、普段の生活に様々な運動あそびを取り入れていけるとよいですね。今回から3回シリーズで、この時期に身につけておきたい運動を紹介し

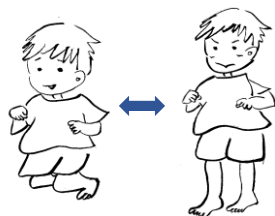
### 今回紹介する運動は『ジャンプ』です。

ジャンプは、基本的な運動の一つです。足や腰の筋肉がしっかり、そしてタイミング良くはたらく必要があります。また、体を支えるためにおなかや背中

## ジャンプ遊びをしてみよう

### ① 両足ジャンプ

(ねらい：両足のつながり・姿勢を保つ)



- 最初は手を持って、慣れてきたら手を放してみよう
- 両足をそろえてジャンプし、着地はぐらぐらしないように止まります。

### ② 音楽に合わせてジャンプ♪

(ねらい：リズム感覚)



- 好きな音楽に合わせて、自由に踊ってジャンプしてみましょう。
- 一緒に踊って楽しい気持ちを共有してみましょう

### ③ タオルジャンプ

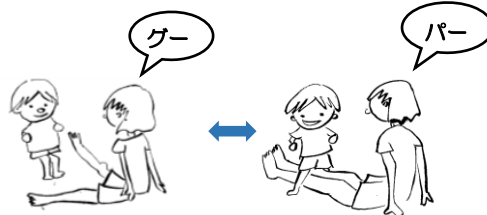
(ねらい：上半身・下半身のつながり)



- 床にタオルを敷いて、タオルを踏まないようにジャンプしてみましょう。
- 着地する場所をよーく見て、ぐっと構えて、腕を振りながらジャンプすると遠くに飛べますよ。
- タオルを少しずつ遠くに置き、遠くへのジャンプにチャレンジしてみてください。

### ④ グーパージャンプ

(ねらい：自分の体をコントロール・注意力)



- 子どもと向かい合わせになります。手をつないでもいいですよ。
- 「グー」で子どもが足を閉じ、大人は開きます。「パー」で子どもが足を開き、大人は閉じます。
- 「グー・パー・グー・パー」と声をかけながら、タイミングを合わせてまずはゆっくりと。

お子さんの様子に合わせて、挑戦してみてください。